

コクリカ坂



本校の国際理解教育に関わる活動を紹介しています。

秋田県立能代松陽高等学校
国際理解通信 No.5
2024.10.21
October Issue 10月号

第2回国際理解講座（1年生全クラス対象）

第2回国際理解講座が、9月12日（木）5、6校時に行われました。この講座は、「隣国の事情や歴史、文化について知り、国際理解に役立たせる」「また、来年度の学科選択や第2外国語選択の判断材料にする」ことを目的に開催されています。当日は、秋田県国際交流員のソン・ミンソン氏（韓国）と、本校中国語担当教員の楊国萍先生^{ヤンクオピン}、同じくロシア語担当教員のミハイロヴァ・アンナ先生を講師にお迎えして、それぞれ自国の紹介や言語について説明をいただきました。講座後の感想からは「隣の国のことなのに自分は何も知らないのだと実感した。」というものが多く、あらためて近くの国について意識するきっかけになったようです。1年生の皆さんの声を紹介します！

- ★ 近い国なのにこんなにも文化が違うと驚いた。ロシアは広く、温度差が激しくて、買うものにも注意しなければいけないことを知った。-60~80度まで気温が低いなんて想像できなかった。中国も韓国も国旗には一つ一つ意味があることを知った。韓国の受験では、みんなが協力的になって受験生を応援しているのがすごいと思った。近い国でも知らないことがたくさんあったので、他の国の文化に興味を持つことができた。(1A Sさん)
- ★ 3カ国の生活や服装、食べ物、流行のものなどをたくさん知ることができた。韓国のジョンン〇〇イムニダや、中国のありがとうシエシエ、ロシアのありがとうスパシーバは覚えられたので、3人の先生と話す機会があったら言いたいです。日本のお金は1円→10ウォン、100円が1000ウォンと、0が一つ違うので気をつけたい。(1A Sさん)
- ★ 韓国では部活よりずっと勉強の方が大切で、国が協力して受験生を応援しているのが凄いと思った。中国は赤がすごく人気で大切にされていることが分かったし、「年越しに餃子」が国特有のものでいいなと思った。ロシアには160もの民族がいて、その気候や文化によって伝統衣装が違うのがおもしろいと思った。(1B Kさん)
- ★ まず3人の方々がとても日本語が上手ですばらしいと思い尊敬しました。日本と違うところがもちろんあるけれど似ているところもたくさんあって驚きました。ロシアと秋田が交流していたことにも驚きました。(1B Wさん)
- ★ 犬夜叉が韓国で人気と聞いて、とても嬉しかったです。韓国のお金の数え方がわからなかったけど、1000ウォンが100円で、数え方を覚えることができました。中国語とロシア語は、とても発音が難しくておもしろかったです。他国の人とコミュニケーションもとれたのでとてもいい経験になりました。私はあまり韓国語を話せないけれど、友達から教えてもらったりして会話することができて本当に楽しかったです。(1C Hさん)
- ★ 今回の国際理解講座を通して印象に残ったことは、韓国のお金は100円から札になることです。他にも日本とは全然文化が違い、聞いていて楽しかったです。自分は韓国に少し興味があるので、いつかまた今日のように韓国の文化や伝統について知る機会があったら、たくさん聞こうと思いました。(1D Cさん)
- ★ 松陽でたくさん国際的な勉強ができることが分かった。韓国のあいさつが、アンニョンハセヨ一本というのがおもしろかった。なぜ中国人がそんなに八が好きなのか気になる。ロシアは広いので、上と下でぜんぜん気温が違うのがおもしろい。いろいろな国に行ってみたい。スパシーバ (1E Iさん)
- ★ いろいろな国の文化について話を聞いてみて、日本の文化との違いを見つけることがとても楽しかった。私は、普通国コミ科ではないけれど、第二外国語を学んでみたいと思った。各国の食べ物も食べてみたいと思った。(1E Fさん)
- ★ 今日の講話を聞いて、日本とは違った文化や、日本には無いような文化などがあり、びっくりしました。韓国では体育祭や球技大会の日には一番豪華な給食が出るというのが一番びっくりしました。この世界では国の数だけそれぞれの文化があるのだと知りました。(1E Hさん)
- ★ 日本のニュースではよくない話が多かったため、海外に苦手意識があったが、旅行など、機会があれば行ってみたいと思った。同時に、一つのメディアの情報だけで物事を判断しないようにしたいと思った。(1E Kさん)

千田潤一氏による「英語トレーニング講座」(全校希望者対象)

また、同日3,4校時には、全校の希望者約60名を対象に「英語トレーニング講座」と題して、千田潤一先生による英語の学習方法についての講座が開催されました。千田先生は、TIME社、AIU保険、TOEICを普及する国際コミュニケーションズ勤務を経て、現在までにSONY・富士通・日本航空等の大手企業や、英語教員・中高大学生向けの講演・セミナーを4千回以上行い、その受講者は19万人を超えます。講座では「耳を開く」ために音読20回するなど英語習得の具体的な方法を紹介していただくと同時に、ユーモアを交えて沢山の教えをいただきました。

この講座を受講した中の25人が、さらに27日(金)の放課後にTOEICのオンライン受験に挑戦しました。英語学習のモチベーションを大いに刺激された講座でした。



講座中の千田先生

TOEIC受験の様子



国際コミュニケーション科ワークショップ with 2A students



9月19日(木)には、国際コミュニケーション科のワークショップが行われました。このワークショップは、コロナ禍で開催を中止した時期を経て、これまで、国コミ科の生徒達が毎年行ってきたものです。今年は、県内在住の外国出身者7名の方々を講師に迎えて開催することができました。

開会式のあとアイスブレイクのゲームから始まり、その後、3~4人のグループに分かれて講師の先生方の英語の自己紹介があり、それを聞いた生徒がそれぞれ全体の前で先生方を紹介しました。その後は、日本語の単語を英語で説明して当てるゲームで盛り上がるなど、英語しか話せない状況に苦戦しながらも、英語を使ってコミュニケーションをとることの楽しさを感じる時間になりました。

午後は、これまで取り組んできた課題研究のプロジェクトグループに分かれ、テーマと内容について、先生方から外国人の視点で助言をいただきました。ローテーションでメンバーチェンジをしながら、同じ質問を繰り返すことで内容も深まり、大変貴重な充実した体験になったようです。

ワークショップの企画立案をした、ミハイロヴァ・アンナ先生は「スモールグループに形を変えたことがうまくいった。できれば、年2回にして今回来ていただいた講師の先生方にも課題研究の成果を見てもらいたい。」と話していました。

🌐 今月の会話練習 🌐

ありがとう



спаси́ба
Спаси́бо



シエシエ
谢谢



카뎀사함니다
감사합니다

